

## 大本山永平寺：傘松閣

傘松閣は、講義や坐禅に参加する大規模なグループを収容するために使用されている。その最大の特徴は、天井の 230 の特徴のある絵画で飾られた格間である。

大広間は装飾された床の間、襖、畳の床は住宅建築様式である書院造りの特徴が数多くみられる。この様式は当初、禅寺の僧侶の宿舎に使用されていたが、安土桃山時代（1568～1603 年）になると多目的に使用されるようになった。現在、書院造りは、民家や旅館などの日本の伝統的な和室として広く使われている。

傘松閣は 1994 年に再建されたが、再建前の木材の一部が残っており、黒ずんだ色なので識別できる。格間天井を飾っている絵画は、主に季節を表す鳥や花である。東京を拠点に活動する 144 名の画家が、伝統的な技法と素材を使用して作成した。花鳥に加えて、五種類の生き物も描かれている。2 匹の鯉、2 匹の獅子（中国風ライオンのお護り）、そして 1 匹のリスである。これらの 5 枚の絵を見つけた人はみな願いが叶うと言われている。